

タイトル: 趣味のパン作りを生かしてつながりづくり ~楽しみながら広がる地域の輪~

活動のアピールポイントを記入してください。

平成 20 年岩手・宮城内陸地震を経験し、地域の復興祭で米粉ピザを作ったのがきっかけで、70 代 4 名、80 代 2 名で週に 3 日パン作りをしています。高齢になっても自分のため、地域のために出来ることとして始めたパン作りは、配達、販売までそれぞれが、役割を持って取り組んでいる。この活動が互いの見守りや支え合いとなり、地域の結束が深まり、生きがいづくりに繋がっています。

①該当の取組を実施する事業者等についてご記入ください。

②取組の活動範囲を一つ選んで○をつけ、具体的な市町村名・地区名等を下にご記入ください。

名称: 栗駒の里パン工房“おふくろさん”

住所:

担当者名:

1. 複数の市町村にまたがる広域
2. 市区町村内の概ね全域
3. 中学校区単位
4. 小学校区単位
5. 自治会単位

取組み開始年度	平成	19 年	取組に関わっている職員および担い手の数	職員	人	担い手	6 人	具体的な範囲	栗原市栗駒滝ノ原
---------	----	------	---------------------	----	---	-----	-----	--------	----------

③主な活動範囲となっている市区町村のデータをご記入ください。

⑤ 各属性ごとの利用者の有無とその各年度ごとの人数をご記入ください。
(人数が不明確な場合はおおよその人数を「約」を付けてご記入ください)

地域包括支援センター設置数	直営		力所	利用者属性	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度				
	委託		5		力所	利用者	有	無	利用者	有	無		
総人口	65,048		人	全体	利用者	有	無	利用者	有	無			
65 歳以上高齢者人口 (総人口に対する割合)	26,527		人	後期高齢者 (75 歳以上)	利用者	有	無	利用者	有	無			
	40.8		%		6	6	6	6	6	6			
75 歳以上高齢者人口 (総人口に対する割合)	13,770		人	男性高齢者	利用者	有	無	利用者	有	無			
	21.2		%		2	2	2	2	2	2			
第 7 期 1 号保険料	月額 5,960		円	要介護高齢者	利用者	有	無	利用者	有	無			
④取組推進にあたって、自治体からの補助金・助成金の支給を受けていますか(または受けていましたか)。該当する選択肢に○をつけてください。													
				認知症高齢者	利用者	有	無	利用者	有	無	利用者	有	無
				独居高齢者	利用者	有	無	利用者	有	無	利用者	有	無
現在受けている かつて受けていたが現在は受けていない <u>受けたことがない</u>						1	1	1	1	2			
現在受けている場合、事業全体額に占める割合 (約 割)				利用者(参加者)一人あたりのおおよその利用(参加)頻度						週	回		

⑥ 取組が行われた背景・経緯・目的についてご回答ください。

背景 栗駒山の麓、山間地域に点在する静かな集落。世帯数も少なく、高齢者が多い地区であり、地域の衰退を防ぐため、自然の恵みを生かし地域一体となってコミュニティづくりに取り組んでいる。

経緯 平成 20 年に発生した岩手宮城内陸地震の復興祭がきっかけとなり、米粉パン作りが始まった。高齢になっても楽しむ場所の一つとしてパン工房の立ち上げとなり、販売することとなった。

目的 高齢になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう、自分達で無理なく楽しみながら続けられること。地区住民とのコミュニケーションを大切に気にかける関係性をさらに深める。

⑦ 取組を行うにあたって、連携している(したことがある)組織・団体数をご回答いただき、それらの法人種別として該当するものをすべて選んで○を付けてください。

連携している(していた)組織・団体数	団体
1. 社会福祉法人(社協以外)	9. 学校法人等
2. 社会福祉法人(社協)	10. 自治体
3. 営利法人(株式会社・有限会社)	11. その他の法人
4. 協同組合	
5. NPO 法人	
6. 社団・財団法人	
7. 医療法人	
8. 住民組織・ボランティア・町内会等	

⑧ 具体的な取組内容をご回答ください(写真や図を自由に用いて作成してください。その際、取組における地域住民の関わり方や、他の組織・団体との関わり方が具体的に伝わるようにしてください。
※サービス提供にあたっての継続性や質の確保の工夫等もあればあわせてご記載ください。)

- ・楽しむことが平成 22 年から 10 年の継続に繋がっている。地域の自慢。
- ・集まることを大切に地区行事へも積極的に参加し、時には物づくりの講師となり一緒に楽しむ。
- ・栗原市内各種イベントへの出店。(米国高校生との交流など)
- ・他地区お茶っこ会などへの出前講座。
- ・パン作りをすることで役割を持ち介護予防につながる。
- ・困った時は互いに助け合う関係となっている。
- ・販売が地域住民とのコミュニケーションのきっかけづくりとなっている。



活動が広がり・・・
各イベントやお茶っこ会などで活躍する場面が増えた。



パン工房 ”おふくろさん” 姿

- ① 定年後の人生を楽しむ
「もうけより楽しみ」
- ② お手当は皆均等払い
- ③ 楽しみ1/3、ボランティア1/3
- ④ 誰からも美味しいと言われる
ジジ・ババの米粉パン・ピザ

パン工房は
集う場となり高齢になっても地域のために出来ること
楽しみながら取り組む・・・



⑨ 取組の評価を実施していますか。実施している場合は、具体的な内容をご回答ください。
パン工房はもちろんのこと、地域のお茶っこ会へ出向いてのパン作りなど取り組みについて好評を得ており、各種行事イベントなどへの声かけがあり、活躍できる場面が多くなっている。

⑩利用者(参加者)の生活状態・心身の状況や生きがい・社会的役割にどのような変化が見られているか、および利用者の日常生活の状況にどのような変化が見られているか、箇条書きで記載してください。

- ・設立時から10年経過し、70代80代になった現在でも現役でパン作りを継続。
- ・年数を重ねる中でも、それぞれが役割を持ち楽しむことを主としてパン作りに取り組んでいる。
- ・メンバーが前向きに取り組む姿勢は、代表である70代の男性の力も大きいと感じる。工夫しながら地区社協や自治会行事への活躍の場を広げている。
- ・普段の暮らしの中での支え合い、気にかけて関係がさらに深まっている。
- ・様々なイベントや交流をとおして、地域の皆さんからの好評が自信と活力につながっている。
- ・社会参加の気持ちを大切に、時には講師となり活躍している。
- ・高齢になっても頼り合える存在となっている。

⑪個別ケースを写真、図等を用いて自由に記載してください。



代表である佐藤博泰さん(70代)は「集いの場」を作りたいと、定年後の夢として生まれ育った故郷に戻ってきた。自然豊かな栗駒の環境を守りつつ高齢になっても楽しみと生きがいをもって暮らしたいと思える地域に、また伝統行事の継承を大切に子どもや孫達が盆・正月には帰ってきたいと思えるそういう地域になって欲しいとの思いから地域の活性化につなげたいとパン工房を立ち上げた。そのパンが今では栗原山麓ジオパーク認定商品に登録され栗原市の観光集客につながっている。高齢になっても出来る範囲で楽しんできたパン作りが社会貢献となり、気負わずただ楽しいそんな思いを持つことが生きがいやこれからの意欲につながっている。